



國家圖書館編

東亞同文書院 中國調查手稿叢刊

13

國家圖書館出版社

六月四日

六月三日

國家圖書館
編

東亞同文書院 中國調查手稿叢刊

13

國家圖書館出版社

第一三冊目錄

昭和三年（一九二八）旅行日誌（第二十五期生）

奥村實	第八卷第六編		一
岡一弘	第八卷第七編		八三
城台正	第九卷第一編		一四三
青木真澄	第九卷第二編		一七九
廣瀬清	第九卷第三編		二三五
伊藤善三	第九卷第四編		二七一
土屋彌之助	第九卷第五編		三四三
安澤隆雄	第十卷第一編		四五五
土井三子雄	第十卷第二編		五二九

昭和四年

調查日誌

北滿國境經濟調查班

第五期生

奥村

實

第八卷 調査旅行日誌

六

五同圖

十月十日

朝来天氣晴朗、午前六時工ニ起サレテ早速慌レ、旅ハ準備ニ
 取掛ル、七時三十分諸先生諸同僚、見送リヲ度ケテ紀念撮影ノ后
 雄々々途ニ上ル、途中吳淞路ニテ旅費(換算)ニ時間ヲ要シ、八時
 半ニ碼頭ニ至ル、九時諸浮修輩、風吹キ「送ラレ僅
 僅ノ大旅行ノ途ニ昇ル。船ハ手摺カ航流ヲ築ケ、船中ニ露人大部
 分ヲ占メ日本人約五十名(四十名同席)、雑談ノ聲靜リ船内
 皆寝ニ就ケシハ十一時頃ナリキ、船内ノ風紀如何?、嗚呼嘆カシ可
 シ。明日ハ青島ヘ……………

青三十日(青島見物)

昨夜エンゲンノ音ニ熟睡スルヲ得ズ、早朝ヨリ寒氣ノ為目ヲ醒ス、
 午前七時頃ヨリ霧カ降リ、船ハ折々警笛ヲ鳴シケラスローリー……………
 九時頃ヨリ霧ガ愈々濃シ、船ハ停船……………スローリー……………停船後進

ム、此ノ瀬子ゾ、青島到着、延、悉、青島到着、早カランコ
トヲ祈リテ止ム。正午頃到着、予是レ青島ニ午後二時到着
連望ス青島！大陸一角、地波万里、彼方ヨリ東洋雄麗、夢ヲ
憶イテ遙々其抱負ノ實現ニ歩キテ刻ヒシ彼、彼乙申口建港カ一
歩ナリ。雄大なる景色、純然タル南欧、景トモ云フ、上陸後自動車
ナメ直黄包車ニテ青島神社ニ参拝ス。青島市街ヲ一下ニ
俯瞰シテ其ノ雄大ナリ。佐徒ホミ市町ヲ見學ス。何ヨリ物寂
シイ所デアル。然レ流石、彼乙、設計ニ依ルモノニテ山間、低地者地ヲ
巧ニ利用シテ余ス所ナリ。然モ其ノ市已ノ整然タル實ニ一驚ニ値ス
然レ其ノ現状ヲ見ルニ青島、今上向シテアル所ニ非ズ、將來伸ビシ
トスル氣運、流ル所トシテハ不充分ナリ。何レカト云ヘン者過シツアル
所ナリ。又佐居ノ邦人トテモ正氣溢レズ、只アヘント見シレヒガメカミ……
四時半歸船五時出航ス。トモ臨ミテ彼乙ノ参劃破テ空シテ残ル

青島、感^カハ深^シクス。有^リ奪^ス取^ル市街戦^ヲ及^リ傷者送^リ還^スノ為^ニ碼頭^ヲ。

青島人總出、軍兵青島在位^ニ氏^ニ材^ニシテ何^トナ^ク泣^キ流^シル^ハ感^ハ懷^シ

セ作^リ別^ニ出^ダタリ。帰^リ船^中部屋^ナリ。團^ニボ^リイ^ニ交渉^ス直^ニ事務^ヲ長

ニ行^キテ二番[、]ハル^ニシ^テ契約^ス。夜^ハ折^良、諸^南ヨ^リ来^テ青^島、同船^ノ

板^木器^代漢^士神^田氏[、]満^漢ヲ聴^ク、(一等^サハル^ニシ^テ)九時^五十分

帰^室。〇ト十二時迄^ハ花^ヲホ^テ床^ニ着^ク。雨^初降^リ時^折整^理留^ラ

鳴^ス。

生^々々^々青島^人ノ歎^音シ

青島^ニ母^口ノ兵^と見^る悲^心シ

六月一日(大連上陸^ニ泊^ル)

起床^キ前^ニ七時[、]二番^室ノハル^ニシ^ニ寢^タテ全^派ヲ食^ブテ時^間ニセ^キ

立^テテ起^キ、船^人依然^トシ^テ整^理、中^ニ北^進ス。青島^ニ残^ル未^練ヲ

大連^ニ運^バ、船^ヲ定^ヨリ過^シテ午後^〇時^三十分^大連^ニ入^港ス。大連^ニ泊^ル。

憧^憧ノ都^ナリ。市^区整^然。宛^モ青島^感々^{ナリ}。漸^ク上^陸セ^ニ、一時^半

次、右ニ般電ニ陸嶽・柳会。工部都市、北ヲ遺憾ニ備ヘ且又
 一目直ニ満鉄・勢力。即チ満鉄・大連至滿鉄・瀋陽・咸陽有リ。諸先
 輩ニ出迎ヘシ直ニ山縣通リニ出テ沿路協会ニ宿ス。途チ大通リハ皆
 日露戦役当時、將軍ヲ拘ナリ。聊カ不快ニ感アリ。又黄塵深キニ
 驚キ。宿泊所直ニ露口領事館ニ行ク。即チ沿路旅行券ノ査證ヲ
 手取リニ先輩。〇氏ニ引率サレテ行ク。

容易ニ査證、模範ニ應ジモ水・泡。露本口ニ打電（料金支払）

シテ右ノ非ニ知ルニ得ズ。又其間、料金一切不許ナリ、折ト張ニ返上セズ
 トノ事ニ聊々困ル。アフリケイニシテ一板十銭一人ニ枚ヲ受ケ、書込ニ
 ノ為。エ・ニ人。〇氏ニ同行。ヤン・ワースト・ビエローニ行ク。後ニ残リ
 レハ名冷カタル雨路領事館ニ残リ待ツ。領事館員何迄冷淡ナリ。
 三時迄ノ業務時間ニ至リ去トイフ。未ダ二時ナリテ頑張ル再
 三、事ニ任然何ニ思フ。乃内前ニテ二人ヲ待タント出デシ時、折良シ。

二人歸來ス。併し今日と明日と明日と手紙を差す由ニテ明日來ル
カ約ニテ大抵個人として交渉、難きを計リ直ニ民政署ニ至リテ庶務
課長ニ援助便單ヲ乞フ。其レヨリ○エニ人ハ直ニ証ハラフ得テ警
察ニ廻リ他ハ在リ電車ニテ帰路ニ付キ途中ハト我輩ハ
碼頭ニ荷物ヲ度取リニ馬車ニテ行キ、四時半歸リ來リ荷物ヲ取
理シテ夕食迄休憩ス。食後自由行動直ニ浪速通リを見物ニ
行キ、大抵所ニ非ズ其處ヨリ人力車ニテ大阪町見物ニ行キ歸
路馬車ニテサウローカーニテ一寸寄り又浪速通リニ入リ途中話
行キ、曖昧屋ニ掛リ后ニバツタ食ツテ馬車ニテ歸ル。時ニ十一時ナリ。
(H.M.N.同行ス)

六月廿

本朝以來近日好晴ナリ。起床稍々遅シハ時次ナリキ。大連、

十日ヲ靜ニ過シテ外出ヲ見合ハス。

福井・岡・和田・等、露飲事館ニ交渉、為返款ノ所ハ出掛ケ

妻々伊勢所ハヤパン・ヤ・リスト・等、一運賃由合セノ為

九時半頃外出中ノエヨリ電話、ヨリバス・ホート、寫眞不足早速

撮影、為来イト、事々四名早速出掛ケ、ヤ・ヤ・電氣寫眞館ニ

撮影ス、帰途函館調査旅ニ至リ、エ・〇・、交渉ヲ待ケモ長イ

シ、途中ヲ歸ル、帰着後四時半頃迄球突ヲニテ右ノ光景

籠谷氏ノ所ニ出掛ケ、散歩ニシテ大連亭ニテ食ヲ取リ麥酒、

酒馳走ニシテ又籠谷氏宅ニテ暫ク話ツテ別ル

丁、迅速所上着、吉野権球場ニ至リ、一回遊ブ、右カエ、ヤ・ヤ・

ニ至リテ飲ム、半ハミシテ、〇・H・M・等、負相ナ格好ヲシテ末ニ偽然ノ会合

ニ痛飲シテ十時頃ニ至ル

M・J・ハ、佐達城所ニ至リ、就寝ニ各直ニ歸リ、沐ニ就テ、明白ニ旅順入

ハ、午後一時頃旅順入

之月三日 晴

朝七時起床直ニ旅館行、用意ナス、E.M.H.A. 秋華却
全五人一行ハ、何時ニテカノ列車ヲ見ニ、残念氣ヲ屋上ニテ駅寄
デ休憩シテ十時旅收着、直ニ旅館ノ駅跡迎リナス、為ニ馬車ニ
ハ乗リ、西若澤々物林ニテ旅館ノ所ヲ接シ先ガ兩聖山へ接軍
刀木ノ戦役碑ノ傍ニ立テ當時ヲ憶ビ、感慨無ク量
歎ヒ不利ナリシ將軍ノ胸中ト又不利ノ当然ナルヲ思フ、今更ニ
スルカナリ只深ク憶ブニ、

酒ヲ飲ニテ一杯飲ケル

也たむゝゝ酒も半向リニ。三（兩聖山）

四時眠ク當時ヲ憶ビ鳴呼山ヲミ修ミ延キ

丘ガ血ニシ取リトシニ。五

今は初夏山ハを望ム

霧峰の山に來て見れば

去りし昔の事を憶ふ。

霧峰の山に來て見れば、残念なう下山。博物館に立
寄り觀覽ス、午三時過ぎ新運省、新運省、木戸乃
見、其文化、偉大なり。更ニ鐵路紀念博物館ニ至
、戰平當時、彈痕（在根二個）並ニ當時使用、銃臭
見、其當時、思、就中、銃、露口將師、高兵
ヲ見、う得、愉快、相ナリ、門前ニ將軍乃木、平植、櫻
有り。

初夏の光を浴びて涼へ行く

平植の櫻を見るぞ 林一

二昔紀念に植へし牛植の木

主事、今日ぞ見るも悲しき。

紫竹と手植の杉見るとつや

長う心に残る心地す (歸宅后)

主きて后由海へも桜花

すまやけと女に長うある(同母(三))

主越りて玉の手は過ぎたれど

伸びる桜や梅吹もるん

其處に終る播教に東雞冠山を訪ふ 最後に西雞冠山

北の壁に見其處に露にこりてゴントラントと海軍一の令をわめ

直に歸路に、玉の半歸着(歌あ)青木トエデタ食ス

后他一人白玉山、ヨリ歸来ス。同タ食后散歩ニ出テA

H. E. 備一人飲み、帰路にエラ見失フ。A 追へ行々十二時

序ニ、寂し行々旅吹、感ラ惜ム。は旅吹ハ終リ所ナ。

同脱ヤフ身ニ血もて洗ハニ。

二〇、山ヲ訪、今日此山

六、山（序天（一）車中）

昨夜旅順見學、疲勞、為是ニ時半ニ起テ去ス。工
ト共ニ庭球ヲヤシ、久方振リ、庭球ニテ去リ是處稍々良好。
セダンカール、徘徊ニテ種々田舎ヲ、后工・W・ノ兩君ニ来リ
テ賑フ。十時以止ニテ去テ全海濱、傍ヲ丁ト共ニ酒ヲ飲ム。十二
時ニ至リテ止ム。

晝食所ニ至テ去テ海濱ニ忙シセ時以皆甲意ヲ終ニテ所去ル。
音々川上ニテ荷物ヲ運ブ、ノリ便乗サセテ駅ニ至リ、九時半
ナリ。〇、工稍々遅ク来リ。エラ強ク先此車場氏、見送リテ去リテ
十時去ス。オ十八期出下氏同乗シ種々佳ク拝聴ス。汽車ナ
ハ坦々タル満州、眺野ヲ上ス。更ニ行リ、満州、空ニ雲氣流
鳴呼凄駭タル満州ヨ！

